

第3回市民ワークショップ 事後アンケート結果

以下、参加者の事後アンケートを取りまとめたもの（順不同）

Q1：このワークショップに参加して、よかったことを一つ教えてください。

- ・ 若い人たちの、私が思いもよらない意見を聞いてよかった。
- ・ 木に対する皆の思い、気持ち考えを知れて良かった。
- ・ 気づき（多すぎる）
- ・ 「街路樹」の話をしながら、「世の中のことを自分ごと化する」作業を、丁寧にすすめられたのが良かった。
- ・ 街路樹についての、市民の方といろいろな話ことができました。
- ・ 街路樹について深く考えることができたし、沢山の人の意見を聞いて、自分が知りたいことと、やっていったらいいことが、つながりました。
- ・ 街路樹で、利益を上げる考えがある事がわかった。
- ・ 今まで街路樹に対して興味を持ってこなかったけど、このワークショップで、様々な考えを持っている人と話して自分の考えをもった。
- ・ 経済的な評価だけでなく、市民の思いのこもった提案を聞いて良かった。
- ・ 街路樹の考え方が、良い方に変わりました。今後もっと関心をもって行きたいと思います。
- ・ 出会い。
- ・ 幅広い年代層の方々の、色々なご意見が聞けてとても楽しかったです。勉強になりました。
- ・ いろいろな職種・世代の方たちの意見が聞けて良かったです。パワーもらいました。
- ・ 毎回、思うけど、それぞれの意見があること、たくさんの意見を重ねて見えていくこと。
- ・ 本数より、みなさん質が大事だと思っていることが分かった。
- ・ 自分では思いつかない街路樹や緑に対する考え方を聞くことができてよかった。
- ・ 本当に30年後のあたり前は、変わっているんだろうなと思いますし、楽しみです。
- ・ 街路樹について、前向きな話や市民の方が課題として思っていることを共有できたこと。
- ・ 予算や期限といった制約にとらわれずに、ありのままの市民の声を聞けたこと。

Q2:あなたは、熊本市の街路樹のある風景は30年後どのようなようになって欲しいですか？

- ・ 本当の森の都を、全国に発信できる街路樹の街になって欲しい。
- ・ 木が木らしく、本来のあるべき姿で、のびのびとしている風景になってほしい。
- ・ ビジネスモデルとして成功している。
- ・ 虫さされ、虫観察、虫とり、雑草、雑木 手入れ二次利用、空間利用、観光、コミュニティ、居場所
- ・ 気持ち良く歩ける道が、多くなって欲しい。
- ・ 「ネオ杜の都」に適材適所で、切る木（場所）、残す木（場所）を市民に提示して、その計画を明確にして、実践できれば、すばらしい都市になると思います。
- ・ 樹だけではなくて、緑が増える町、緑と人が生きる町になってほしいです。
- ・ 街路樹発電（エネルギー）
- ・ 緑とともに快適な町。
- ・ 樹である必要はないと思いました。
- ・ 魅力ある街路樹をめざす。（身近に近寄れる場所となるよう）
- ・ 街路樹ではなくても、緑が多いね、熊本市は！！
- ・ 市民みんなで、活用し育てる街路樹になってほしい。都市の中の森ではなく、森の中の都市（シン杜の都）になってほしい。
- ・ 適材適所。
- ・ 人にとって、木にとって、いいものであってほしい。
- ・ みんなに必要とされる街路樹（質が高い）
- ・ 街路樹が、もっと人の身近なものになっていて欲しいです。
- ・ 街路樹について、定期的に話す場がある風景。
- ・ 地域で親しまれる、愛着のある風景になってほしい。

Q3：あなたが考える、持続可能な街路樹マネジメント（街路樹育て）の課題はどのようなものですか？

- ・ 緑に対する市民意識のアップ。
- ・ 管理、木をどう見ていくのか。
- ・ 1つではない、隣保班の森づくり、森をつないだエリア、エリアの体験会。
- ・ いかに関「公共」のものを、市民（住民）そのものの問題と受け取ってもらえるようにするか。「共働」とか「市民参画」を意識の底から実行できるようにすること……の難しさ。
- ・ 本数管理でなく、被覆率で考え、街にどれくらい、このエリアではどのくらいなど、もっと科学的、具体的データをもとに、マネジメントすることが大事。
- ・ 道路と樹になっている。
- ・ 自分は恩恵を受けるだけ、関わらないという気持ち、“再生”を考えていくことが目的だが、なかなか伝わらない、意識して考えることができない。
- ・ 今はわからない。
- ・ 切った後の空間の使い方。
- ・ 木に対して、本気で向き合っているわけではない、木は街路でない、山や広場の方が育つのに、なぜ街路に植えるのか、考えていない。
- ・ 伐採の後には必ず何かしらの植樹をする。木だけでなくても良い“緑”を。
- ・ お金がかかる。
- ・ 外路樹は、管理費の3倍の収益があることを認識する。「i-Tree」という、収益を出す式がアメリカにある。市民の外路樹という意識を育てる。
- ・ 市民と行政の共存、どこまで市民がかかわって出来るか。
- ・ 見て気付いて終わるのではなく、関わっていけるように、掃除、声掛け等、行っていく。
- ・ 木がない期間に、なにで補っていくかを考えること。
- ・ 私もそうですが、“管理する”となると、多くの人は、なかなか手が出ないところだと思います。
- ・ 再生する街路樹のあり方（目標像）の共有。
- ・ 様々な意見を集約しきれていないこと。
- ・ 造園業の専門家も同席させてみては。

Q4：あなたがやってみたい、持続可能な街路樹マネジメントは、どんなことですか？

- ・ 熊本の緑の歴史を記録していきたい。
- ・ 市から民へ、民が愛する樹としてのマネジメント。
- ・ ツアー企画
- ・ まずは、自分の目の前の「緑」を大事にする。
- ・ まず、バス停近く、交差点近くの大樹は、減らしたい。(交通安全上、交通渋滞解消)
- ・ 歩道と樹を考える。
- ・ 自分が関わるには、どうすればいいか考えて、実践していく。
- ・ 町を歩いて目的地に向かって歩くだけではなく、周りを見て歩いて“気づく”こと。
- ・ 自樹発電のイルミネーション。
- ・ 街路樹だけじゃない、たくさんの種類の緑をつかう。見える化、SDGs、空いている場所にできること。
- ・ 街路に樹がある必要性を皆が理解していれば、能動的にはたらきかけると思った。
- ・ 市民と行政が共有することを多く作ること。
- ・ 歩道と街路樹スペースを今より3～4倍に。
- ・ 一本の街路樹を管理する(見守る)家族を決める。「いい家の樹」のような。
- ・ 今回までに話した内容を広げていけるように考え続けること、小さな事も思いついたら、やってみること。(ここだけでなく、色々なところで色々な人と話しを広げていくこと。)
- ・ 道路に影響を受けない環境で育つ街路樹、マネジメント。
- ・ 緑の価値づくり、個人的には人の当たり前をどう変えていくかに興味があります。
- ・ 街路樹が活用された商品の購入など。
- ・ 特になし。